

学習評価 FIRST STEP —中学校美術科 鑑賞編—

1 学習評価は何のため?

学習評価の目的は、生徒の資質・能力を育成することです。生徒の学習状況を適切に見取り、生徒の学習改善や教師の指導改善に生かすことが大切です。



2 学習評価の機能

○指導に生かす評価

生徒一人一人の学習状況を把握し、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげるための評価のこと
※[指導に生かす評価]の場面は、随時存在します。生徒の学習状況を把握し、「おおむね満足できる」状況(B)以上になることを目指して、必要な指導を適宜行います。

○記録に残す評価

観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう、学習状況を記録する評価のこと
※[記録に残す評価]は毎時間設定する必要はありません。生徒全員の評価を記録に残す場面を精選することが重要です。題材のまとまりの中で、評価規準に照らして、生徒の観点別学習状況を把握し、記録します。

3 学習評価の観点

育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえ、以下の3つの観点で評価を行います。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」p.27 参照

4 題材の学習評価の進め方

以下の題材を例に、学習評価の進め方の具体について示します。

第3学年 B 鑑賞
題材名 日本と西洋の美術文化 ～それぞれのよさや美しさを味わおう～

Step1 題材の目標と題材の評価規準を確認します。

題材の目標

- 形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。 **[知識及び技能]**
- 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。 **[思考力、判断力、表現力等]**
- 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。 **[学びに向かう力、人間性等]**

→詳しくは、文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 美術編」pp.160-161、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」pp.34-35 参照

題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形や色彩が感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	鑑 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に日本や西洋の美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※本題材は独立した鑑賞の題材であるため、**技**、**発**、**態表**の評価を行いません。

Step2 題材の指導と評価の計画に沿って評価を行います。

題材の指導と評価の計画

→詳しくは、佐賀県教育センターWeb「[学習指導プラン](#)」、「[授業実践のまとめ](#)」参照

●学習のねらい・学習活動	知	思	態	評価方法・留意点等
1. 鑑賞(1時間) ●日本の美術作品と西洋の美術作品を比較鑑賞し、造形的な視点に着目し、作品の見方や感じ方を深める。 ・歌川広重「神田明神曙之景」とホッペマ「ミッデルハルニスの並木道」を比較鑑賞し、形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。 ・作品の特徴から感じ取ったことなどをワークシートに記入する。 ・作品の特質を基に、それぞれの作品の表現の特質についてグループで話し合い、学級全体で共有する。 ・共有した表現の特質を基に、それぞれの作品のよさや美しさについて自分の考えをワークシートに記入する。 ・日本の美術作品の影響を受けたと言われている西洋の美術作品があることについて触れ、次時の学習への見通しをもつ。	知	鑑	態鑑	知 (共通事項)の内容について理解できているかを見取り、できていない生徒に対しては、奥行きを表し方に着目することができるようになるなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート】 鑑 表現の特質などから造形的なよさや美しさを感じ取り、創造的な工夫について考えているかなどを見取る。できていない生徒に対して作品のイメージの違いなどから、それぞれのよさや作者の表現の工夫などについて考えることができるようになるなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート】 態鑑 表現のよさや違いなどを捉えようと主体的に鑑賞をしているかを見取る。できていない生徒に対して、それぞれの作品の描かれているものの違いや描かれている場面、天候などを考えることができるようになるなどの指導を行う。【活動の様子、ワークシート】
2. 鑑賞(1時間) ●日本の美術作品と日本の美術作品の影響を受けた西洋の美術作品を比較鑑賞し、それぞれの美術文化について考え、見方や感じ方を深める。 ・歌川広重「神田明神曙之景」とモネ「陽を浴びるポプラ並木」を比較鑑賞し、造形的な視点や構図を軸に、相違点や共通点をワークシートに記入する。 ・ワークシートに記入した内容を基に、西洋の画家が残した西洋の美術作品の表現の特質と、影響を受けた日本の美術作品の表現の特質についてグループで話し合い、学級全体で共有する。 ・日本の美術作品や西洋の美術作品の表現の特質などから、それぞれの作品のよさや美しさ、美術文化についてワークシートにまとめ、学習を振り返る。			態鑑	知 (共通事項)の内容について理解できているかを見取り、できていない生徒に対しては、構図や作風に着目することができるようになるなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート】 鑑 それぞれの美術作品の表現の特質などから相違点や共通点に気付き、表現の意図と創造的な工夫について考えているかどうかなど、主体的に鑑賞をしているかを見取る。できていない生徒に対して日本の美術作品の影響を受けた西洋の美術作品と比較鑑賞するよう促すことで、それぞれの美術作品の表現の特質や表現の工夫に気付けることができるようにする。【活動の様子、発言の内容、ワークシート】 態鑑 主体的に作品を鑑賞し、形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、日本の美術作品と西洋の美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、表現の意図と工夫やそれぞれの美術文化などについて考えようとしていたりしているかどうかを評価する。【活動の様子、ワークシート】
<授業外:題材が終了後>	知		鑑	知 ワークシートの記述などから、形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかどうかを評価する。【ワークシート】 鑑 日本の美術作品と西洋の美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、表現の意図と創造的な工夫、美術文化などについて考えて、見方や感じ方を深めているかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】

生徒の学習状況を把握し、[指導に生かす評価]を行います。

本題材において
第一次と第二次にて、学習のねらいに即して行います。

[指導に生かす評価]を行う際は、「努力を要する」状況(C)の生徒への手立て等を講じ、指導します。

生徒全員の学習状況を記録し、[記録に残す評価]を行います。

本題材において
態鑑について
→基本的に授業中の活動の様子から評価します。
授業終了後にワークシートに記入された内容を基に評価に加えることも考えられます。

知と**鑑**について
→生徒のワークシートの記述や発言の内容から評価します。

知は授業外にワークシートの記述を基に評価を行います。**鑑**は授業終了後にワークシートの記述を基に評価することが基本となります。

Step3 集めた評価結果やそれに基づく資料などから、観点ごとの評価の総括(A、B、C)を行います。

観点別学習状況の評価の総括

観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	知	鑑	思	鑑	態	鑑
氏名	評価規準	評価	評価規準	評価	評価規準	評価
生徒あ	B	B	B	B	B	B
生徒い	A	A	A	A	A	A

・題材の評価規準に照らして、(A)、(B)、(C)の3段階で行った評価結果を基に、観点ごとに評価の総括を行います。



学習評価の進め方(中学校美術科)



『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(中学校美術)



学習評価の詳細については、佐賀県教育センターWeb「[学習評価の進め方](#)」や国立教育政策研究所「[『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料](#)」を御参照ください。